

令和5年度 経営改革プラン

団体名	神戸高速鉄道株式会社
-----	------------

設立年月日	昭和33年10月2日	
団体の設立目的・沿革	4電鉄（阪神、阪急、山陽、神鉄）のターミナル駅を結び、相互直通運転をすることによって、市内の交通の不便を解消すること等を目的とし、株式会社（第3セクター）方式で設立、昭和43年4月に神戸高速線の営業を開始した。	
団体の主な事業内容	事業名	所管局
	第三種鉄道事業（神戸高速線）	自主事業
	駅賃貸業	自主事業
	付帯事業	自主事業
代表者	代表取締役会長 梶川 龍彦、代表取締役社長 久須 勇介	

役職員数 (令和4年7月時点)	取締役		監査役		職員		合計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	有期	無期	
団体固有職員	-	-	-	-		-	-
神戸市派遣職員	-	1	-	-		-	1
神戸市OB職員	1	-	-	-	-		1
その他	2	4	-	1	2	5	14
合計	3	5	-	1	2	5	16

財務状況（単位：百万円）	令和3年度	令和2年度	差引
経常損益	143	348	▲ 205
税引後当期純利益	125	348	▲ 223
販売費及び一般管理費	1,339	1,435	▲ 96
流動資産	891	2,797	▲ 1,906
流動負債	1,184	3,323	▲ 2,139
長期借入金（固定負債）	11,537	11,759	▲ 222
期末現金預金残高	0	0	0

■中長期的なミッション（神戸市行財政改革方針2025期間中のミッション）

ミッション①	鉄道の安全確保
ミッション②	健全な経営の維持
ミッション③	鉄道利用者（市民）の利便性・快適性の向上

■短期的なミッション（令和5年度のミッション）

ミッション①	神戸高速地下街（メトロこうべ）の賑わい・滞留空間の創出
--------	-----------------------------

■経営指標（令和3年度）

経営指標				令和2年度	令和3年度	前年度比増減
人的パフォーマンス	職員一人あたり純利益	純利益/職員数	職員1名あたりが、どの程度の利益を上げているか。(百万円)	57.970	17.788	▲40.2ポイント
	経常費用人件費比率	人件費/経常費用×100%	経常費用に占める人件費の割合がどの程度あるか。	2.28%	3.52%	1.2ポイント
財政的パフォーマンス	総資本経常利益率	経常利益/総資本×100%	経常的な収益性はどの程度見込まれるか。	1.54%	0.71%	▲0.8ポイント
	流動資産回転率	売上高/流動資産×100%	流動的な資金が効率的に運用されているか。	69.05%	176.32%	107.3ポイント
財政安定性	流動比率	流動資産/流動負債×100%	短期的な資金をどの程度確保できているか。	84.18%	75.31%	▲8.9ポイント
	自己資本比率	自己資本/総資本×100%	団体固有の資本がどの程度あるか。	4.74%	5.97%	1.2ポイント
持続性	自己資本当期純利益率（ROE）	当期純利益/純資産×100%	資本を効率的に運用しているか。	32.56%	10.44%	▲22.1ポイント
	純資産増加率	(当期純資産-前期純資産) / 当期純資産×100%	純資産が持続的に増加しているか。	32.56%	10.44%	▲22.1ポイント

※ 第三種鉄道事業においては「中小企業実態基本調査」による業種別平均値が存在しない。

■ ミッション工程表

ミッション名	令和5年度			令和6年度			令和7年度～					
中長期的ミッション												
鉄道の安全確保	鉄道の安全の確保に努める(継続)											
健全な経営の維持	有利子負債を着実に返済する等により健全な経営状況を維持する(継続)											
鉄道利用者(市民)の利便性・快適性の向上	維持管理を適切に行い、保有する駅施設等を適切な状態に保つ(継続)											
ミッション名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
短期的ミッション												
神戸高速地下街(メトロこうべ)の賑わい・滞留空間の創出	市が実施する滞留空間創出の取り組みと連携しながら中央広場等を活用して定期的にイベントを実施する											
	★ 新開地音楽祭の会場として使用			※その他のイベント実施時期は現時点では未定(月1回程度実施予定)								

■ ミッションを踏まえた団体目標

目標及び実現方法	目標 (できるだけ達成度を表す 数値目標も記載)	①有責鉄道運転事故0件の継続 ②神戸高速線の有利子負債残高84億円(令和7年度末) ③補助事業で取得した駅施設等を適切に保有 ④神戸高速地下街の賑わいや滞留空間の創出を実現
	①有責鉄道運転事故0件の継続	
	・第二種鉄道事業者(阪神・阪急・神鉄)と連携して、安全の確保に努める	
	②令和7年度末の神戸高速線の有利子負債残高84億円	
	・神戸高速線に係る有利子負債を着実に返済する	
	③補助事業で取得した駅施設等を適切な状態で保有	
	・鉄道事業者(阪神・山陽・神鉄)と連携して、施設等の維持管理を適切に行う	
④神戸高速地下街の賑わいや滞留空間の創出を実現		
・市が実施する中央広場や通路における滞留空間創出の取り組みと連携しながら、地元の方やメトロこうべの通行者などをターゲットに、月1回程度イベントを実施する		

■ 市支援策の活用状況(令和4年度)

<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体共通内部通報窓口	<input type="checkbox"/> 経営懇談会	<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体職員向け研修	<input type="checkbox"/> 民間代替性調査
<input type="checkbox"/> 専門家紹介制度	<input type="checkbox"/> 経営診断	<input type="checkbox"/> 企業統治状況調査	